

古代ローマ年表

B.C.509	共和政の樹立。ルキウス・ユニウス・ブルータスが王政打倒。 日本(縄文時代～B.C.4C) パトリキ 元老院 プレブス 平民(農民、職人) 護民官選出(プレブスの代表) *plebian	
367	コンスル(執政官)2名のうち1名をプレブスから選出 法務官、造営官の設置	
312	アッピア街道建設(ローマ～カプア)	
287	ホルテンシウス法制定 平民会の決議は元老院の決議を得なくとも国法になる 平民出身の富裕な家系の人々は貧しい市民と密接な関係を持つ。保護者(パトロネス)と被 護民(クリエンテス)の相互扶助	
264	第1次ポエニ戦争 対カルタゴ ローマ勝利	
216	第2次ポエニ戦争 カルタゴ勝利(ハンニバル)	
202	ローマ勝利(大スキピオ) <u>地中海世界の覇者</u> となる	
107	マリウス(カエサルの伯母の夫、民衆派)がコンスルになる ゲルマン諸部族の北伐	
100		7月13日 カエサル 誕生 於・貧民街スプラ
91	スッラ(閥族派)コンスルになる	
88	スッラのローマ制圧 マリウス逃亡	
87	スッラのミトリダス討伐、マリウス復権	
84		カエサル(16) キンナの娘と結婚
82	スッラ帰国、恐怖政治(処刑、追放等) <u>元老院を600名にする。</u>	スッラがカエサル(18)に離婚命令。拒否をして 逃亡
78	スッラ死去	カエサル(22)帰国
76～73		ロードス島に留学。73年(27)帰国し神祇官、大 隊長になる。
72～70	ポンペイウスとクラッススが東西の反乱 軍や海賊討伐。二人とも執政官に就任	カエサル(30)この頃民衆支持の姿勢鮮明に
～63	<u>ポンペイウスの名声高まる</u> キケロが執政官に就任 カティリーナは落選	カエサル(37)最高神祇官に就任
62	カティリーナの陰謀、発覚。極刑。	カエサル(38)法務官就任。 カティリーナの極刑にカエサルのみ反対
61	前年に帰国したポンペイウスの凱旋式	(39)遠スペインの属州総督となる
60		(40)戦果を上げ帰国。ポンペイウス、クラッス と共に <u>三頭政治</u>
59		(41)執政官に就任。娘ユリア、ポンペイウスに 嫁ぐ

ローマ関連

カエサル(シーザー)関連。()内年齢

B.C. 58	キケロ、護民官クロディウスの報復でギリシャに逃亡	(42) ガリア属州総督に赴任。ガリア戦役1年目 ゲルマン人との会戦。ライン川をローマの基本防衛線に
57	<u>三頭政治に元老院の反撃始まる</u> 三頭、トスカーナのルッカで会談	(43) ガリア戦役2年目。ベルギー、大西洋岸の諸部族と講和。全ガリアの平和獲得。オルレアンに冬营地
56	ルッカ会談	(44) ガリア戦役3年目。ノルマンディー、ブルターニュ地方に進攻。ノルマンディーに冬营地
55	ポンペイウスとクラッスス執政官就任	(45) ガリア戦役4年目。ライン渡河。第1次ブリタニア進攻。現イギリス上陸。ブリタニア兵と激戦、撤退
54	ポンペイウスの妻ユリア死去。 <u>元老院派と三頭派との確執</u> 。クラッスス、シリア進攻	(46) ガリア戦役5年目。第2次ブリタニア遠征。テムズ川渡河。ブリタニア軍を破り、講和、ガリアに帰還
53	クラッスス、パルティア遠征。 クラッスス死去。キャッシュス逃亡	(47) ガリア戦役6年目。ライン再渡河。ガリア北東部諸部族平定
52	ポンペイウス1人執政官に。メルテス・スキピオも執政官就任。ポンペイウス、スキピオの娘と再婚	(48) ガリア戦役7年目。中部ガリア部族反ローマで結集。中心人物ヴェルチンジェトリックス捕囚 「ガリア戦記」全7巻刊行
51	キケロ、「国家論」刊行	(49) ガリア戦役8年目。ガリアのローマ化に着手。 北伊属州に戻る
50	「カエサルが10個軍団とローマに向け南下中」との虚報。 <u>元老院派、執政官ポンペイウスに迎撃要請</u>	(50) 元老院派との確執。右腕ラビエヌスに元老院派が近寄る。カエサル派の新護民官アントニウスと元老院派との政治抗争。ラヴェンナに留まる
49	1月7日ポンペイウス、続いてキケロ、執政官マルケルスもローマ脱出。	(51) 1月12日一個軍団を率いてルビコン川渡河。(賈は投げられた)。3月イタリア半島を実質制覇。スペイン全土も制覇して12月ローマに入る。独裁官に指名される
48	ポンペイウスとカエサルの戦い。 <u>ポンペイウス、アレクサンドリアでローマ兵により殺害される</u>	(52) 8月9日ファルサルスの会戦。カエサル勝利。 10月アレクサンドリアに上陸。クレオパトラと弟プトレマイオス13世に共同統治の裁定
47	プトレマイオス13世戦死。14世とクレオパトラの共同統治始まる。	(53) 6月小アジア上陸。ファルナケスを一蹴(来た。見た。勝った。)ローマに凱旋。長期の独裁官に任命される。ポンペイウス派制圧に向う
46	ヌミディア王、スキピオ、小カトーの死。	(54) ポンペイウス派制圧。8月4回の凱旋式。ユリウス暦(太陽暦)採用。10年任期の独裁官に任命される
45	スペイン属州でポンペイウスの遺児、ラビエヌス等再蜂起。	(55) 3月ムンダの会戦でポンペイウス派制圧。パクス・ローマの確立。民生の充実。帝政化を企画し改革に着手
44	アントニウス執政官に就任。 オクタヴィアヌス(18歳カエサルの妹の孫)を第一相続人とする遺言状の開封。 暗殺者たちへの民衆の糾弾高まる。	(56) 1月パルティア遠征を発表。2月元老院と市民集会により <u>終身独裁官に任命される</u> 。3月15日暗殺される。 3月18日火葬される
43	アントニウス、レピドゥス、オクタヴィアヌスの第2次三頭政治成立	
42	フィリピにてブルータス、キャッシュス連合軍敗北。二人とも自死	

シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」

登場人物

ジュリアス・シーザー (ユリウス・カエサル)		マーカス・ブルータス
オクテーヴィアス・シーザー	} シーザー死後の	キャシウス
マーカス・アントーニウス (アントニー)	三執政官	キャスカ
イーミリアス・レピダス		トレポーニウス } シーザー暗殺の
シセロー (キケロ)		リゲーリアス } 陰謀者
パブリウス	} 元老院議員	ディーシャス・ブルータス
ポピリアス・リーナ		メテラス・シンバー
フレーヴィアス	護民官	シナ
マララス		
アーテミドーラス	クニドスの修辞学教師 (ギリシャ語)	
ルシリアス		ヴァロー
ティティニアス		クライタス
メサーラ	} ブルータスとキャシアスの友人	クローディアス } ブルータスの召使い
小ケートー		ストレートー
ヴォラムニアス		ルーシャス
キャルパーニア	シーザーの妻	ダーデーニウス
ポーシャ	ブルータスの妻	ピンダラス } キャシアスの召使い

第1幕 シーザーを亡き者にしようとするキャシアスの陰謀の実現に向けての策略。ブルータスを動かし、その他の仲間を集めようとする。

平民(靴屋)達がシーザーの凱旋を祝うため、晴れ着を着て街頭に出てきている所を護民官にとがめられる。彼らがポンペイウスの凱旋を祝ってそれ程間がないのに、早くもシーザーを祝おうとするためだ。シーザーがアントニー、ブルータス、妻キャルパーニア、キャシウス、キケロ達と登場すると、早くも占い師が現れ、「3月15日(実際にシーザーが暗殺された日)に用心せよ」という。

シーザー一行が退場後キャシウスとブルータスの会話。* (1) キャシウスはかつて気弱と見ていたシーザーが王にもなろうとするのを快く思わず、ブルータスに昔王を倒してローマを共和政にしたのは、同じブルータスと言う名の人物だった、などと言いブルータスを陰謀に巻き込もうとする。しかしまだブルータスはキャシアスの言葉に乗って来ない。

シーザー一行が再び登場し、シーザーはキャシウスが瘦せていて、本を読みすぎ、物を見る目が鋭く、人の行為の奥底を見抜く。芝居を好まず、音楽も聴かず、めったに笑わない男だから危険だ、と言う。

再びシーザー一行の退場後、ブルータスがキャスカにシーザーが浮かぬ顔をしていた理由を尋ねる。

シーザーにアントニーから三度王冠が捧げられたが、三度ともシーザーはそれを拒否した。その度に市民たちが歓声を上げた。キャシウスが「キケロが何か言ったか(Did Cicero say anything?)」、と問うと、「ギリシャ語でね。俺はギリシャ語はちんぷんかんぷんなんだ。(It was Greek to me.)」、と言う。キャシウスは、別々の市民からのだと見せかけて筆跡を替え、ローマがいかにブルータスを大事に思っているかを書いた手紙をブルータスの家の窓から投げ込むことにし、すでに仲間に加わったシナにそれをさせる。キャシアスの言葉巧みな陰謀に乗せられ、キャスカも仲間入りする。

(1) Cassius: Tell me, good Brutus, can you see your face? どうだ、ブルータス、自分の顔が見えるか?

Brutus: No, Cassius; for the eye sees not itself } いいや、キャシウス、目は己を見ることは出来ぬ、
But by reflection, by some other things. } 何か他のものに映して初めて見えるのだ。

Cassius: 'Tis just; } そのとおり。

And it is very much lamented, Brutus, } だからみんな悲しんでいるのだぞ、ブルータス、

That you have no such mirrors as will turn そのような鏡を持っていないために、君の目は
Your hidden worthiness into your eye, その隠された値打ちを、君の本当の姿を、
That you might see your shadow. 映し見ることができないと言ってな。

第2幕 ブルータスはキャシアスの姦計にはまり、シーザー殺害者たちに加わる。他の陰謀者たちが集まる。
そしてついに3月15日の朝を迎える。

* (2) ブルータスはシーザー殺害に加担することを思い悩むが、それを個人的理由ではなく公の理由、すな
わち、シーザーが王冠を欲しがっているという理由で実行すべきと思う。昔王政を廃した祖先に倣って、召使が
ブルータスの書斎の窓に彼を扇動する手紙を見つける。市民を装ってキャシアスが書いた手紙には、
'Brutus, thou sleep'st. Awake, See yourself. (おのれを見よ。)' と書かれていた。
陰謀者たちがブルータス邸に登場し策略をめぐる。ケクロは仲間に入れないことにし、アントニアスを倒
すのは、ブルータスの反対で見送られる。キャピトルでの再会を決め退場。妻のポーシャは異変をキャッチ
自分にも話すよう求める。他方シーザー邸では、妻のキルパーニアが悪夢を見て、シーザーが殺される
と叫び、外出しないように頼む。しかしシーザーは出かけようとするが、占い師も出かけるなど凶が出ている
言うので出かけないようにしようとするところに、デーシャス・ブルータスが来て、元老院の決議でシーザーに
王冠を捧げる手筈になっているなどと言い、シーザーはキャピトルに行くことにする。ブルータスその他陰謀者
達も迎えに来る。ギリシャ語教師アーテミドラスがブルータス達の陰謀を知り、手紙でシーザーに知らせよう
とする。ブルータス邸では妻のポーシャが陰謀の結末を心配している。

(2)

Brutus: It must be by his death; and for my part どうしても彼の死が必要だ。おれとしては
I know no personal cause to spurn at him, 彼にたてつく個人的理由は何一つない、あるのは
But for the general: he would be crown'd. おおやけの理由だけだ。彼は王冠を欲しがっている
How that might change his nature, there's the question. 手に入れたら彼の性格がどう変わるか、それが
It is the bright day that brings forth the adder, 問題だ。マムシが這い出るのはきまってるらかな日だ、
And that craves wary walking. Crown him---that! だから用心して歩かねば。彼を王に？ そこだ！

第3幕 ついにシーザーはブルータス、キャシアス達によって暗殺される。難を逃れたアントニアスは
暗殺者たちのシンパと見せつつ、巧みな弁舌で市民を動かす。シーザーの遺言状が読まれ、
市民たち其々にお金を残してくれたことを知り、市民は暗殺者達を謀反人と呼び非難する。

結局シーザーは元老院の集まりに登場する。策略通りレポーニアスがアントニーを引き離し、
メテラス・シンバーが追放された兄の赦免を願う訴願状をシーザーに差し出すが、シーザーは許諾しない。
その時カスカがシーザーを刺し、次ぎ次ぎ他の陰謀者たちが刺し、最後にマーカス・ブルータスが刺す。
シーザーの最後の言葉、'Et tu, Brute? -----Then fall, Caesar!' (ブルータス、おまえもか。死ぬしかない、
シーザー。) アントニアスが戻り、自分もシーザーの傍らで死ぬなら本望だ、と言うと、ブルータスはアントニーの
死は求めぬ、と言う。アントニアスは暗殺者たちと和解しようとする。そしてシーザーの葬儀を市民の前で行い、
追悼の述べて欲しいと頼む。キャシアスは反対するが、アントニアスの前に、ブルータスが暗殺の理由を市
民達に説明することで合意する。

広場の演壇に立ちブルータスは、シーザーを愛さなかったためではない、それ以上にローマを愛したためにシー
ザーを刺した。彼には野心があった、と述べる。市民達はブルータスに同情する。シーザーは暴君だったなどと言
う。そこにシーザーの遺体を前にアントニアスが演説する。* (3) ブルータスは、シーザーに野心があったと言
うが、本当にそうだろうか、シーザーに王冠を三度捧げたが、三度とも拒否した。シーザーの遺言状が読まれる。市
民にそれぞれ75ドラクマづつ贈る、とあるのを知った市民達はブルータス達を謀反人、と非難し、復讐を呼びかけ
る。オクテーヴィアス、とレピダスがローマに到着したことでブルータスとキャシアスがローマから逃げたことを召使
いが知らせる。

* (3)

Antony: Friends, Romans, countrymen, lend me your ears;
ears;

I come to bury Caesar, nor to praise him. 私はシーザーを埋葬しに来たのであって、讃えに来たのではない。
The evil that men do lives after him; 人の行う悪事は死んでからも生き残り
The good oft interred with their bones; 善行はしばしば骨と一緒に埋められてしまう。
So let it be with Caesar. The noble Brutus シーザーもそうなるがいい。気高いブルータスは
Hath told you Caesar was ambitious. シーザーは野心を持っていたと語った。
If it were so, it was a grievous fault; もしそうならば、それは悲しむべき罪だ。
And grievously hath Caesar answer'd it. そして悲しいことにシーザーはその酬いを受けたことになる。
Here under leave of Brutus and the rest--- こうしてブルータス一派の許しを得て、
For Brutus is an honourable man; というのも、ブルータスは立派な男であり、
So are they all, all honourable men--- その仲間も皆、立派な男たちだからだ
Come I to speak in Caesar's funeral. 私はシーザーの葬儀に話しをしにやって来た。
He was my friend, faithful and just to me; シーザーは我が友であり、私には誠実で正しかった。
But Brutus says he was ambitious, だが、ブルータスはシーザーに野心があったと言う。
And Brutus is an honourable man. そしてブルータスは立派な男だ。
He hath brought many captives home to Rome, シーザーは多くの捕虜をローマに連れ帰った、
Whose ransoms did the general coffers fill; その身代金はことごとく国家に収められた。
Did this in Caesar seem ambitious? このようなシーザーに野心の影が見えたらうか？
When that the poor have cried, Caesar hath wept; 貧しいものが泣くとき、シーザーも涙を流した
Ambition should be made of sterner stuff. 野心とはもっと冷酷なもので出来ているはずだ。

第4幕 アントーニウス、レピダス、オクテーヴィアス第2次三頭政治スタート。小アジア(現トルコ)のサーディス近郊で、挙兵したブルータスが陣を張っているところにキャシウスがやってくる。

アントニー、レピダス、オクテーヴィアスが集まり、暗殺者たちの処分について話し合う。ブルータスとキャシアスの挙兵が伝えられる。ブルータスは小アジアのサーディス近郊に陣を張っている。そこにやってきたキャシウスがルーシアスがサーディス人から賄賂を受取ったのを許して欲しいとブルータスに頼んだが、彼が拒否したと責める。ブルータスはブルータスで兵士に払うお金が不足するのでキャシウスに融通をつけてくれるように使いを出したが拒否された、と言う。しかし結局気持が落ち着き和解する。

ブルータスは妻のポーシャが亡くなったことを打ち明ける。友人たちが来て、ローマの様子を伝える。元老院議員たちが大勢処刑され、その中にケケロも入っていた。アントーニウスとオクテーヴィアスが大軍を率いてフィリパイに進軍しているとの報告も届く。

キャシウスはサーディスで迎え撃とうと言うが、ブルータスは自分たちの兵士達の気持が高まっているので、フィリパイまで進軍しようと言う。眠りに着こうとしてブルータスは召使いのルーシアスに演奏するように頼む。本を読もうとしているところに、シーザーの亡霊が出現し、フィリパイで会おう、と告げる。

第5幕 フィリパイ近くの平原で、アントーニウス、オクテーヴィアスの軍勢とブルータス、キャシウス軍の戦い。後者の敗北。キャシウス、ブルータスの死。

オクテーヴィアスとアントーニウスが軍勢を構えている所に、ブルータス、キャシウスが部隊を率いて登場。4人が顔を合わせ、戦いを挑む。戦闘が始まり、キャシウスの方はアントーニウスの軍勢に囲まれる。召使いのピンダラスの誤解により、偵察に行かせた者が捕らえられたと思い、ピンダラスにキャシウスを突かせキャシウスは果てる。戦の中で小カトーも死ぬ。一敗地にまみれたブルータスも召使いの剣先に果てる。

「ジュリアス・シーザー」の主人公は？

これまでどのように演じられてきたか。

17C. ~ 18C 哲学者であり英雄であるブルータスが主人公。

19C 3幕2場の演説の場を重要視して、アントーニウスが中心。

20C シーザーを中心とする政治劇。

ベン・ジョンソンによって、シェイクスピアは、'small Latin and less Greek' と古典語の教養の無さを評されているが、ストラットフォードのグラマースクールで学んでいるので、基礎的な知識は十分備わっていたのではないかとと思われる。

「ジュリアス・シーザー」の種本とされるのは、プルターク(プルタルコス) -45AD頃~125AD, ギリシャの哲学者、著述家 -の著書、「英雄伝」の「シーザー伝」、{ブルータス伝}、「アントーニウス伝」である。ルネッサンス・ヨーロッパでは、プルタークの名声が高まり、各国で翻訳されたが、イギリスでは、トマス・ノーソンによって、フランス語から翻訳され、影響力のある著作となった。

シェイクスピアの「ジュリアス・シーザー」は、ガリア地方やスペインを征服して「ガリア戦記」を残し、兵力の劣る中、ポンペイウス派を倒した輝かしい英雄シーザーを描いていない。シーザーの最後、ポンペイウス派を倒して凱旋するも、元老院派にとっては、むしろ不安材料、要注意人物。シーザーに忌み嫌われているキャシアスにとっても不愉快な状況。清廉潔白で理想主義的なイメージのブルータスだが易々とキャシアスの口車に乗せられる。シーザーとブルータスを余り代り映えない人物像に描いている。シーザーの英雄的側面だけでは、人間の表裏一体ありのままを描くシェイクスピアには不足だった。「人間の弱点に深い理解を示した」シェイクスピアだからこそこの「ジュリアス・シーザー」だと思えるが第1幕最初は、戦いに強いシーザー像が描かれていても良いように思う。

参考文献

大修館シェイクスピア双書	JULIUS・CAESAR	大場建治編注
白水社	ジュリアス・シーザー	小田島雄志
新潮文庫	ローマ人の物語 1~13	塩野七生
筑摩学芸文庫	プルタルコス英雄伝	村川堅太郎編
潮文学ライブラリー	プルターク英雄伝	鶴見祐輔訳
小学館	シェイクスピアは誘う	河合祥一郎
中央公論社世界の歴史	ギリシャとローマ	櫻井万里子・本村凌二
講談社学術文庫	ガリア戦記	カエサル/ 國原吉之助訳

